

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 11 号	氏名	押 渕 素 子
学 位 審 査 委 員	主 査	永 安 武	
	副 査	相 川 忠 臣	
	副 査	河 野 茂	
論文審査の結果の要旨 1 研究目的の評価 本研究は、胸部手術の全身麻酔における非侵襲的かつ連続的な炭酸ガスモニターとしての経皮炭酸ガス分圧 ($P_{TC}CO_2$) 測定の有用性を呼気終末炭酸ガス分圧 ($P_{ET}CO_2$) 測定と比較検討することにより証明しようとしたもので、目的は十分に妥当である。 2 研究手法に関する評価 本研究では 26 例の肺切除術症例を対象に、全身麻酔導入後にダブルルーメンチューブ挿管下に、両肺換気と片肺換気時の $P_{TC}CO_2$、$P_{ET}CO_2$ を測定し、同時期の動脈血炭酸ガス分圧 ($PaCO_2$) との圧較差の検討を行っており、研究手法も妥当である。 3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、$P_{TC}CO_2 - PaCO_2$ 較差は $P_{ET}CO_2 - PaCO_2$ 較差より有意に小さく、$P_{TC}CO_2$ が $PaCO_2$ とよく相関することが示唆された。肺切除時の換気血流比の不均衡による影響を受けない $P_{TC}CO_2$ は、高炭酸ガス血症が予想される肺切除症例において有用な炭酸ガスモニターと考えられた。 以上のように本論文は、胸部手術麻酔における適正な呼吸管理の確立に貢献するところが大であり、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。			